

「混血」強めた支配力

地元の伝説の中には、舟越明神社（鳥海柵跡南端にある石祠）に関する説話がある。源頼義・義家父子が貞任討伐の際、胆沢川が洪水で渡れなかった。しかし、船に乗った翁が現れ、渡してくれなことを不思議に思い、祭ったというもの。

まさにこれは、神の力によって鳥海柵の中に足を踏み入れることができた。通常では踏み入れることができなかった、という側面を表している。

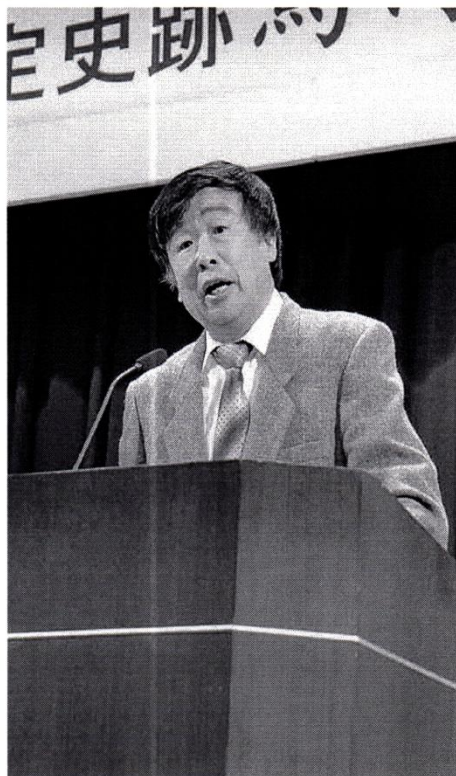
つまり、在庁官人の支配の実態として、その支配の拠点には中央官人も

入れなかった可能性があった。

私は、儀式的には入れることもあったのではないかとと思うが、「陸奥日記」には、実態を見る

ことができなかったと記されている。これは、象徴的な話だと思う。

つまり、在庁官人の力が、それほど強くなっていたというこの表れたということだ。ここに対立の根本的な原因があるというこのことをお話しした



大平聡宮城学院女子大教授

金ヶ崎の国指定史跡

鳥海柵を知る

8

— 2014 シンポジウムより —

基調講演 大平 聡氏 (宮城学院女子大教授)

「鎮守府胆沢城から鳥海柵へ」 VIII

にどう対応するのかわからない話になってしまう。だからこれは、エミシの地で起こったエミシ対中央政府という特異な事例である話をまとめることで、落ち着きを得ようとした都人の政治的認識の

限界を示す事柄だと私は考えている。

最後に、安倍氏がエミシであったかどうかという点に、触れなければならぬ。

安倍氏の先祖が、中央下りの安倍氏ではなかったのかという説をお話しました。下向してきた貴族が、在庁官人化してエミシの地を支配するようになったのだろうか。

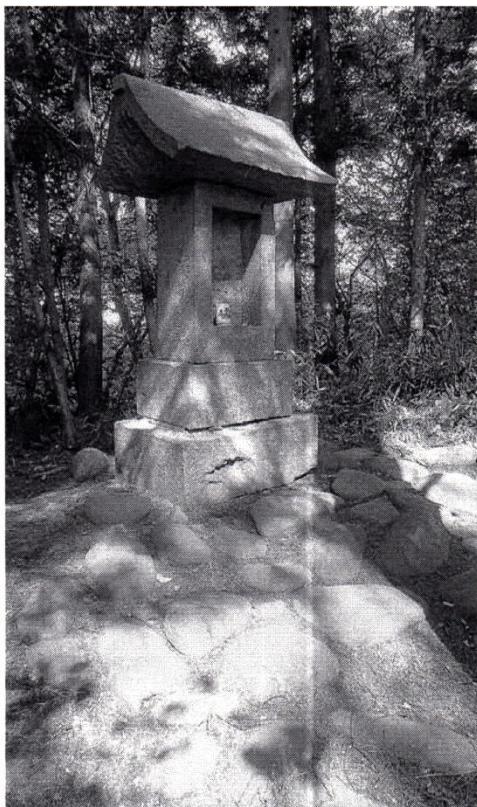
入間田宣天先生（東北大名教授）がハイブリッド（混血）論を唱えている。つまり、地元の有力者が、下向してきた中

央の官人を自分の一族に取り込み、高貴化を図り、支配力の強化を目指したという考えである。下向してきた安倍氏が勢力を築いたわけではなくて、エミシの有力者が自分の娘と婚姻させて土着化させた。安倍氏という名前は、もしかするとそつやって引きずり込まれたのではないか。これの確実な例は、安倍氏が娘婿に迎えた藤原経清である。

同様の例はたくさんある。頼朝もそう。北条氏が政子と婚姻を結ばせる。都下りの高貴な血を、自らの一族に引き込んでいって、より力を付けていこうとする方法である。この地域に根差してい

ただ、それを証明する資料は今のところない。状況証拠なども合わせて、今後考えていかねればならないことだと思っ

この回で大平教授の講演要旨の連載は終わり、次回からパネルディスカッションの内容を紹介していきます



宝曆風土記と安永風土記に源頼義・義家父子が勧請したと記されている船越明神社石祠